

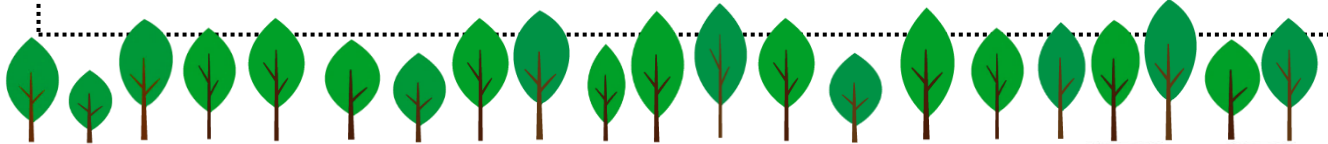
今月の PICK UP



「すてきなひとりぼっち」 谷川俊太郎/詩 童話屋 911.5 夕

感染防止のために他者との距離を取ることに、「ソーシャル・ディスタンス」という言葉もすっかり耳に馴染んだものになりました。そんな折、書架を前にしてふと目に入ったタイトルが「すてきなひとりぼっち」。谷川俊太郎さんの詩集です。表題になっている詩はウイルスとは全く関係ありませんが、前向きな孤独とでも言いましょうか、ひとりぼっちであることが心強くなるような詩です。

この本に収録されている「あお」という詩の一節をご紹介します。「よるのやみにほるぶあおは あさのひかりによりみがえるあお」。明けない夜はないのです。



「頑張りすぎない 10 人の暮らしの取捨選択」

メディアソフト書籍部/編 メディアソフト 590.4 メ



毎日の忙しい暮らしの中で、どうすれば快適に過ごすことができるのか。令和の世の中には「素敵な暮らしのお手本」や「素敵なモノ」の情報があふれています。そんな情報に振り回されてムダ買いになっていませんか？

本当に心地よいと感じる暮らしのために大切にしたい事は何か、そのためには何が必要で何が不要なのか。この本ではその考え方をわかりやすく提案してくれています。

司書の おすすめ



「ひるけ」 阿部了/著 木楽舎 748 ア

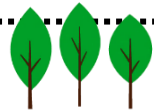
ひるけとは、昼食のこと。本書は幼稚園児から大人まで、年齢も職業も様々な人たちの昼食の光景を集めた写真集です。弁当、おにぎりを、会社のデスク、船上、森の中などで嬉しそうに食べる人、ただ黙々と食べる人。何も特別なことはない、日常そのものなのに何か惹かれます。

ランチというより、昼ごはんという言葉がぴったり当てはまる1冊です。



「サクリフェイス」 近藤史恵/著 新潮社 913.6 コ

本書はプロのロードレースチームに所属する白石誓(ちかう)を主人公とした物語です。冒頭の不吉な場面と、チームのエースを巡る黒い疑惑にはドキドキしてしまいます。丁寧に臨場感のある描写に加えて二転三転する物語に、自転車競技の知識ゼロ、スポーツに興味ナシという人でも、ぐいぐい作品に引き込まれること間違いなしです。



「かがくのとものもと」 福音館書店 051.8 カ

毎日のおもしろい、たのしい、ふしぎな気持ちや世界を見せてくれるのが月刊科学絵本「かがくのとも」です。発刊されてから50年600冊の歴史があるシリーズです。みなさんも何冊かお読みになったことがあるかもしれませんね。本書では、その600冊が一堂に紹介され、丁寧に作られるその過程を実際のラフスケッチとともに楽しめます。

パラパラとめくれば、懐かしい1冊に、そして新たなワクワクを感じる1冊に出会えることでしょう。大人も子どもも一緒に楽しんでください。

